

標準化活動対応WGにおける 具体的検討の進め方(案)

平成23年12月26日

標準化活動対応WGにおける具体的検討の進め方

1. 当面の検討の進め方

標準化政策検討委員会第4回及び第5回会合で決定された今後の検討の進め方等に従い、以下の要領で、当面の検討を進めていくこととしたい。

- ◆ 今後の検討に向けて、本WGで検討された「重点分野」(スマートグリッド、クラウド、3D、次世代ブラウザ、デジタルサイネージ、DECE)の検討状況を踏まえ、それぞれの活動の関係者等の意見を集約する形で、各活動の目標と計画を取りまとめた基礎資料を作成する(第一次案は資料04-04～04-06のとおり)。
- ◆ 別紙1及び別紙2に示す考え方等を踏まえつつ、当該基礎資料を最終答申の一部としてオーソライズするイメージで必要な検討を行い、論点整理を行いながら最終答申における具体的な提言内容について議論を深める。

2. 当面の検討スケジュール

- 23年12月26日 WG第4回会合(今後の進め方、基礎資料の検討)
- 24年 1月 下旬 WG第5回会合(基礎資料のブラッシュアップ、論点整理)
- 同年 3月中旬 WG第6回会合(とりまとめ案)

＜目標設定に関する4つの条件＞

1 具体的な目標であること。

いつ、何をするかははっきり書かれていること。

2 挑戦的な目標であること。

後で成功したと言いたいがために意図的に低い目標を設定しないこと。

3 実現可能な目標であること。

実行可能性に対して十分な配慮と検討を行った上で高い目標を設定すること。

4 測定可能な目標であること。

＜留意事項＞

- 長期的な目標を設定する場合には、途中のチェックポイントとしてマイルストーンを設定すること。
- 挑戦的な目標を設定することから、リスクマネジメントの視点に配慮すること。

※ 標準化政策検討委員会第4回及び第5回会合での議論を踏まえて作成

(1) 国による標準化活動の促進が、中間答申で検討した各種課題解決に貢献しているかと評価し得るか

- ・ 利用者の利便性向上や産業の発展の観点からのネットワークインフラ発展に対する要求
- ・ 震災を契機として明らかとなった課題の解決 等

(2) 「国民の目に見える効果」等の観点から、国による標準化活動の促進に意義を見出し得るか

- ・ 我が国のICT産業の国際競争力の強化
- ・ 震災を契機として明らかとなった課題の解決 等

(3) 標準化活動に携わる者の中で、標準化の目的や、競争領域・協調領域のあり方などについて、基本的認識が共有された上で活動が行われているか

(4) その他

- ・ 活動支援のあり方
- ・ 人材育成
- ・ 研究開発戦略、知財戦略との連動
- ・ 標準採用に向けた工夫 等

※ 中間答申及び標準化政策検討委員会第4回及び第5回会合での議論を踏まえて作成